



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年1月31日

上場会社名 日本食品化工株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2892 URL <http://www.nisshoku.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高野瀬 励
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部経理課長 (氏名) 山本 明弘 TEL 0545-52-3181
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績 (2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	34,065	△6.9	△87	—	163	△79.2	132	△76.7
2019年3月期第3四半期	36,594	△2.2	435	△64.1	785	△42.9	568	△46.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	26.95	—
2019年3月期第3四半期	115.58	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	34,299	18,592	54.2
2019年3月期	34,321	18,586	54.2

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 18,592百万円 2019年3月期 18,586百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	—	—	25.00	25.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期 (予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	△4.2	50	82.6	300	△24.6	250	△11.9	50.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	6,400,000株	2019年3月期	6,400,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	1,481,115株	2019年3月期	1,481,095株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	4,918,886株	2019年3月期3Q	4,918,958株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済は、令和への改元が行われた中、ひきつづき雇用、所得環境の改善が進み、緩やかな回復基調を維持しているものの、台風15号、19号による大規模な風水害や消費増税後の景況感の悪化、また世界経済においては、米中貿易摩擦の激化、米国とイランの対立激化に伴う中東での地政学リスクの高まり、英国のEU離脱に伴う混乱など先行き不透明感が高まっています。

原料とうもろこしのシカゴ相場は、期初361セント/ブッシェル台で始まり、米国の長雨が続いた影響による作付遅延から435セント/ブッシェル台となりました。その後は、生育に適した天候となったことへの期待感から367セント/ブッシェル台迄値を下げましたが、米中貿易協議「第一段階」の合意による米国穀物の輸出増加期待から第3四半期平均では382セント/ブッシェル台となりました。

また、原油相場は期初61ドル/バレル台で始まり、米国のイラン制裁による中東の地政学リスクの悪化から、63ドル/バレル台となりました。しかし、サウジアラビアの石油施設への攻撃で一時急騰する場面があったものの、世界的な原油需要の減退懸念や生産量の回復から54ドル/バレル台迄値を下げました。その後は米中貿易協議「第一段階」の合意により世界経済減退懸念が後退し、第3四半期平均では56ドル/バレル台となりました。

一方、米国から日本までの穀物海上運賃は、期初51ドル/トン近辺で始まり、南米穀物の輸送増加や2020年1月からIMO（国際海事機関）のSOx規制が強化されることから、第3四半期平均では58ドル/トン台となりました。

為替相場は、期初112円/ドル台で始まりましたが、米中貿易摩擦の激化懸念や、香港での大規模な抗議デモ活動及びホルムズ海峡でのタンカー襲撃による中東での地政学リスクの悪化等から円高が進み、107円/ドル台となりました。しかし、その後は、9月に米国が2回目の政策金利の引き下げを実施した事に加え、米中貿易協議「第一段階」の合意や、英総選挙で保守党が大勝し、英国のEU離脱への不透明感が払拭されたこと等から第3四半期平均では109円/ドル台となりました。

このような状況のもと、当社は生産効率の改善、製品在庫水準の適正化及び各種コスト削減に取り組むとともに、前期に引き続き付加価値製品の拡販に注力しました。

販売面では、4月以降天候に恵まれ昨年よりも高い気温となりましたが、改元と重なった大型連休の需要取込が前年度末から前倒しで始まったことに加え、梅雨冷と夏場の天候不順が影響し、第三のビール及び清涼飲料向け糖化製品の販売数量は減少しました。また、澱粉製品についても、加工食品向け澱粉製品が堅調に推移したものの、製紙向け澱粉製品は製紙メーカーの生産調整により需要が減退し出荷が低調に推移したことから、澱粉製品全体の販売数量は減少しました。

さらに、企業間競争は引き続き激しい状況のため、製品及び副産物ともに販売数量が減少するなど、収益面についても厳しい状況となりました。

この結果、当第3四半期累計期間における当社の売上高は340億6千万円（前年同四半期比6.9%減）、営業損失は8千万円（前年同四半期は営業利益4億3千万円）、経常利益は1億6千万円（前年同四半期比79.2%減）、四半期純利益は1億3千万円（前年同四半期比76.7%減）となりました。

次に、各部門の販売概況は以下のとおりであります。

(澱粉部門)

澱粉部門は、製紙向け澱粉製品の出荷が振るわず販売数量が減少したことにより、売上高は86億6千万円と前年同期比7億2千万円（7.7%）の減収となりました。

(糖化品部門)

糖化品部門は、冷夏の影響でビール系飲料及び清涼飲料向け糖化製品の出荷が振るわず販売数量が減少したことにより、売上高は205億8千万円と前年同期比12億円（5.5%）の減収となりました。

(ファインケミカル部門)

ファインケミカル部門は、消費増税前の駆け込み需要の影響により、売上高は13億8千万円と前年同期比7千万円（5.4%）の増収となりました。

(副産物部門)

副産物部門は、配合飼料の販売単価が下落したことに加え、主製品の販売減少により副産物の発生量及び販売数量が減少したことにより、売上高は34億2千万円と前年同期比6億6千万円（16.3%）の減収となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間における総資産は342億9千万円となり、前事業年度末と比較して2千万円の減少となりました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が10億5千万円、原材料及び貯蔵品が10億1千万円減少したものの、流動資産のその他が14億9千万円増加したこと等によるものです。また、負債については、前事業年度末と比較して2千万円の減少となりました。その主な要因は、未払金が11億9千万円減少したものの、借入金(純額)が9億7千万円増加したこと等によるものです。

なお、純資産は185億9千万円となり、自己資本比率は54.2%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の業績予想につきましては、2019年4月26日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	227	215
受取手形及び売掛金	11,037	9,984
電子記録債権	96	213
商品及び製品	3,257	3,548
仕掛品	2,150	2,085
原材料及び貯蔵品	2,965	1,948
その他	461	1,953
貸倒引当金	—	△3
流動資産合計	20,196	19,946
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,768	3,393
構築物	440	431
機械及び装置	5,709	5,296
車両運搬具	9	6
工具、器具及び備品	230	257
土地	1,862	1,862
リース資産	62	111
建設仮勘定	451	361
有形固定資産合計	11,535	11,720
無形固定資産		
借地権	45	45
ソフトウェア	257	322
その他	58	52
無形固定資産合計	361	420
投資その他の資産		
投資有価証券	301	288
関係会社株式	371	371
繰延税金資産	1,379	1,378
その他	178	177
貸倒引当金	△3	△5
投資その他の資産合計	2,227	2,210
固定資産合計	14,124	14,352
資産合計	34,321	34,299

(単位: 百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,253	1,248
短期借入金	3,429	4,305
未払金	3,630	2,435
未払法人税等	5	14
賞与引当金	748	545
役員賞与引当金	21	14
資産除去債務	38	49
その他	60	209
流動負債合計	9,188	8,822
固定負債		
長期借入金	2,400	2,500
退職給付引当金	3,912	4,083
環境対策引当金	47	47
資産除去債務	158	171
その他	28	81
固定負債合計	6,546	6,883
負債合計	15,734	15,706
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,600	1,600
資本剰余金		
資本準備金	327	327
その他資本剰余金	0	0
資本剰余金合計	327	327
利益剰余金		
利益準備金	400	400
その他利益剰余金		
建物圧縮積立金	165	157
構築物圧縮積立金	0	0
機械装置圧縮積立金	0	0
土地圧縮積立金	113	113
別途積立金	7,000	7,000
繰越利益剰余金	11,071	11,089
利益剰余金合計	18,750	18,760
自己株式	△2,147	△2,147
株主資本合計	18,531	18,540
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	56	46
繰延ヘッジ損益	△1	5
評価・換算差額等合計	55	51
純資産合計	18,586	18,592
負債純資産合計	34,321	34,299

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	36,594	34,065
売上原価	29,955	28,417
売上総利益	6,639	5,648
販売費及び一般管理費	6,203	5,735
営業利益又は営業損失(△)	435	△87
営業外収益		
受取配当金	243	253
その他	171	91
営業外収益合計	414	344
営業外費用		
支払利息	31	23
固定資産除却損	29	55
その他	3	15
営業外費用合計	64	94
経常利益	785	163
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
税引前四半期純利益	785	163
法人税、住民税及び事業税	116	28
法人税等調整額	100	2
法人税等合計	216	30
四半期純利益	568	132

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。